



園だより

文京区立第一幼稚園
令和3年度1月号

自ら伸びようとする芽を大切に

園長 田村 秀子

新年 おめでとうございます。今年も年始は晴天に恵まれ、ご家族で楽しく過ごされたことと思います。幼稚園にも子供たちの元気な声が響き始めました。新たな年に一人一人が希望をもち、一つ大きくなる自分を目標に元気いっぱい過ごせるよう、教職員皆で力を合わせてまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年のことを思い返してみると、コロナ禍でも様々な状況に対応して、子供たちはよく遊びました。しっかりと手洗い、うがいをし、静かに食事をし、マスク姿で友達とコミュニケーションをとっていました。先生たちもマスク姿でしたが、子供たちは小さな声も聞き取ろうとしたり、身振りや目の表情から思いを読み取ったりしていました。そしてマスクをしていても自分の思いを伝えようとしていました。先生や友達と同じ空間で過ごしながら、同じ動きをしたり、共感したり、話し合ったりして、育ち合ってきました。

年長組がクラス対抗リレーでなかなか勝てず、どうして勝てないのか話し合ったとき、三角コーンの回り方や走り方だけでなく、「話を聞いてないから」「集中してないから」「違うことしゃべってるから」など、自分たちの課題をついた意見が出たときは感心しました。そして次に皆で集中して頑張れたときには、集団としての育ちを実感しました。どの学級も、様々な個性の子供同士が関わり、学び合い、育ち合っています。3学期もどんな成長の姿を見せてくれるか楽しみです。様々な関わりの中をつまづくこともあるかもしれませんが、伸びようとする芽を大切に、園と家庭で共に見守り、育てていきたいと思っています。

さて、今年はとら年です。トラの出ってくる絵本を探すと自宅の本棚に「おどりトラ」という絵本がありました。韓国・朝鮮の昔話で、金森襄作 再話、鄭淑香 画です。トラの絵の表現が素晴らしく、引き込まれました。

山奥にたくさんのトラが住んでいて、その中に踊りの好きなトラがいて、「おどりトラ」と呼ばれるようになりました。仲間からは追い出されましたが、トラは踊りの腕を磨き、米がとれない時や子供が病気の時、踊ってお祈りをすると米がとれ、病気も治るようになりました。人々に「神様のお使い」と言われたトラは、ある時、山へ帰ります。トラの仲間が迎えてくれて、お祝いに獲物をとることにしました。そこで木に登って逃げる人間を

つかまえようと、トラたちは高い木までつながってトラばしごを伸ばします。ところが人間が「この世の最後に」と吹いた笛の音を聞いておどりトラが踊り出し、トラばしごは崩れ、その人間は助かったというお話です。トラは獰猛で恐ろしい動物とされていますが、民話の中では音楽が好きだったり、山神の化身として踊ることで困っている人を救ったり、仲間と力を合わせたり、笛が好きな心の美しい人間を助けたりする存在として、豊かに描かれています。そのようなトラが本当にいたのかもしれませんが。

様々な絵本を通して心を豊かにする体験も、引き続き大切にしていきたいと思っています。3学期は「おはなしかぎぐるま」として読み聞かせのボランティアに登録している方々にもご協力いただきます。感染予防対策をとりながらの実施となりますが、どうぞよろしく願いいたします。



スイセンが咲きました

寒さが厳しい季節ですが、健康に気を付け、春を信じて元気に過ごしていきましょう。